

燃料及び潤滑油類関係補給用語の統一に関する通達

昭和35年9月13日 空幕補第443号(125)
全 部 隊 長
全 機 関 の 長あて 航空幕僚長の命により
各 分 任 物 品 管 理 官 総務課長

改正 平成3年9月4日 空幕補第325号

標記について、別添のとおり補給用語を統一されたので今後これにより実施されたい。

装発調第169号
昭和35年8月12日

陸上幕僚長
海上幕僚長
航空幕僚長

殿

装 備 局 長

燃料及び潤滑油類関係補給用語について

標記について、別紙のとおり統一したので今後これによらるたい。

写送付先： 防衛第1課長
会 計 課 長

燃料及び潤滑油類関係補給用語

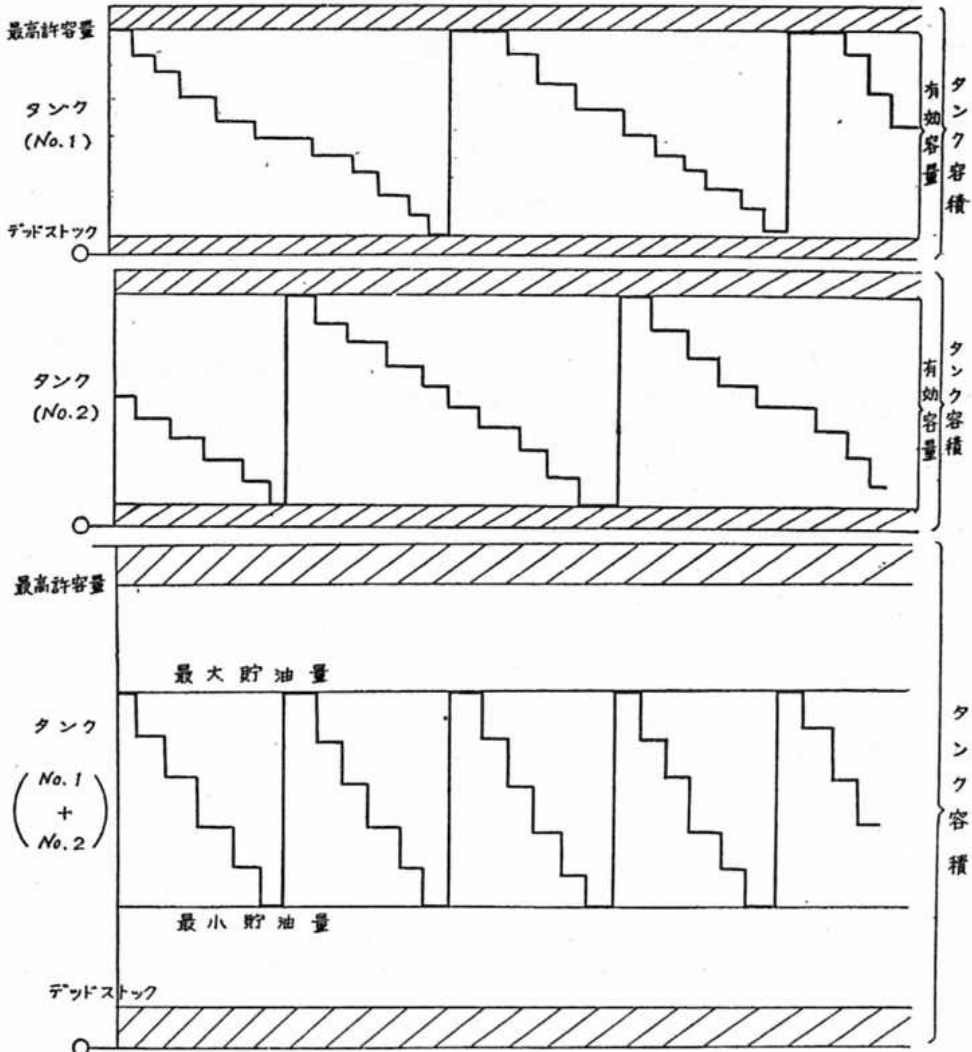
用語	意義	説明
貯油タンク (タンク、油タンク)	液体燃料又は潤滑油（以下「油」という。）を貯蔵するため設置された「そう」をいう。	
タンク呼称	貯油タンクの概略の大きさを示す呼称をいう。	単位としては、リットル、キロリットル又はトンが使われる。
タンク容量	貯油タンクの内容積を言う。普通内容積はタンクテーブルの最高目盛により測定される。	単位としては、リットル、キロリットルが使われる。
最高許容量	個々の貯油タンクについて、保安上の見地から定めた貯油可能の最大量をいう。	貯油タンクにおいては屋根に届くまで油を入れると漏洩その他の不測の事故の恐れが考えられるので、タンクの容積一杯に油を入れることを避けるように最高許容量が定められる。
デッドストック	個々の貯油タンクの構造上及び品質管理面から日常操作において使用できず残置される量をいう。	これは油種によって異なり、例えば重質油については、油タンクの底部は重合物が沈積して品質が劣化するので、底をさらうことは不適當であり、デッドストックはかなり大きい。軽質油は、主として油底沈降物等の異物混入を防ぐためより比較的小さくてすむことが考えられる。
有効容量	個々の貯油タンクについて、最高許容量とデッドストックとの差をいう。	
貯油タンク施設	1基又は2基以上の貯油タンク及び付帯設備を含み、油を受入れ、貯蔵し及び出荷するための一連の施設をいう。	貯油タンクの施設のタンク容積、最高許容量、デッドストック、有効容量等の用語は、施設を構成する貯油タンクの合計とする。通常その合計は油種ごとに行われる。
貯油量	貯油タンク又は貯油施設において貯蔵する油の量をいう。	

有効貯油量	貯油量からデッドストックを差し引いた量をいう。	
最大貯油量	貯油タンク施設における或期間中の貯油量の最大値をいう。	① 或程度の長期間について考えると個々の貯油タンクの最大貯油量は通常最高許容量に一致するが、2基以上の貯油タンクから或る貯油タンク施設における最大貯油量は、通常各貯油タンクの最高許容量の和より小さくなり、その値は同じ油種に使う貯油タンクの基数と大きさ、油の受入先、輸送の状況等により左右される。 ② 個々の貯油タンクについても、それが日常の補給操作の中で動いている限り、一定の期日（例えば年度末）を定めてその日時における貯油量を最高許容量に一致させようとするは必ずしも容易ではない。
操作貯油	平常の補給操作を行うために必要な貯油をいう。	
操作貯油基準	操作貯油の最大必要量を出荷先の需要量を基準とした時間数で表した数をいう。	単位としては、通常日、月又は年が使われる。陸上自衛隊4ヶ月、海上自衛隊及び航空自衛隊は、3ヶ月
操作貯油量	操作貯油量の最大必要量をいう。	
安全貯油	予測できない事故により補給活動が中断されたり、予想以上の補給の必要が生じたりして操作貯油でまかないきれない場合に補給と操作するための予備的な貯油である。	予測できない事故としては、調達の遅延、国際的影響による油の輸送の不円滑、災害、国内輸送の一時的事故等が考えられる。航空自衛隊の緊急予備はこれに該当する。
安全貯油基準	安全貯油の最大必要量を出荷先の需要量を基礎とした時間数で表した数をいう。	陸上自衛隊2ヶ月分、航空自衛隊1.5ヶ月分
安全貯油量	安全貯油の最大必要量をいう。	
保有貯油基準	操作貯油基準と安全貯油基準との和をいう。	

保有貯油基準量	保有貯油基準の貯油を量で表したものをいう。	
緊急貯油	緊急事態（災害出動、防衛出動等の補給に必要な貯油をいう。）	従来備蓄といわれていたものはこれに含まれる。この貯油の基準及び態様については現在検討中である。
ランニングストック（ランスト、ランスト分）	防衛庁において年度初めの補給操作の円滑を期するために必要な油の購入費として、年間の訓練に必要な油の経費の外に予算上認められた経費をいう。	従来平均して年間消費の3ヶ月分が認められている。経費に換算している点で通常常識的に使用されているランニングストックとは若干意義を異にしている。
貯油率	貯油タンク施設において最大貯油量とタンク容積との比を云う。	
総合貯油率	2以上の貯油タンク施設を総合的に見た場合の貯油率をいう。）	民間における総合貯油率は、凡そ 0.4~0.45である。

参考

図一 貯油タンク及び貯油施設における貯油量の時間的变化 (標準状態)



図二 貯油施設における貯油量の推移

